

発 言 通 告 書

発言者氏名	永井真人
発言の会議	令和3年 2月25日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長、上下水道局長、教育長

【件名及び発言の要旨】

Ⅰ 施政方針について

(1) 職員の意識改革について

- ア この1年間で職員の意識にどのような変化があったと感じられるかについて、市長の考えを伺う。
- イ 来年度の職員の意識改革に向けた具体的な取組について伺う。

(2) 予算編成について

- ア 予算編成方針は十分な財源確保に至っていないと同時に、毎年綱渡りのような財源確保に終始してしまうという危機感に対する市長の認識について伺う。
- イ 一般企業がどのように生産性向上に取り組んでいるか、どのような形で行政に取り入れることができるかを改めてしっかりと研究してもらいたいと思うがいかがか。
- ウ 事業評価方法の見直しを指示されたとのことだが、変更の時期や見直しのポイント、評価時期のサイクル、また他の事業評価との統合はあるのかも含めて、その後の検討状況を伺う。

エ 新たな事業評価シートは人件費も含めたフルコストでの記載はもちろん、市民が見てもしっかりと評価できるものにすべきである。市長には意気込みを持って事業評価シートの作成の指示を出していただきたいが、市長の所見を伺う。

オ 公共施設の見直しについては前倒して行うべきであると考えるが、市長の考えを伺う。

カ 限られた人材リソースを効率よく、効果的に配置できるよう工夫してもらいたいと考えるが、市長の考えを伺う。

(3) 行政組織の改編について

ア 市長が理想とするあるべき行政組織の姿について、伺う。そして、それに向けて今後も組織改編をしていく必要があるとお考えか伺う。

(4) 国際交流について

ア 市としての国際交流の意義をどのように感じているかについて市長の認識を伺う。

イ 来年度の学生研修事業については感染防止策をしっかりと行った上で、開催すべきであると考えるが、市長の所見を伺う。

ウ 今までの事業に加えて、オンラインでの国際交流イベントにも取り組むべきだと思うが、市長の所見を伺う。

エ 課の名称について所管の内容が偏らないような方向性を持たせることを検討すべきであると考えるが、市長の考えを伺う。

(5) 民間人材の積極的な活用について

ア 民間人材の活用の効果について市長の認識を伺う。

イ 本市として差別化を図っていきたい取組を担う部局において積極的に民間のプロフェッショナル人材の活用を推進するべきではないかと考えるが、市長の考えを伺う。

(6) ふるさと納税の返礼品の追加拡充について

ア 税収を増やすことを財源確保策の柱の一つにし、稼ぐ自治体にしていくことが重要であると考えるが、市長の考えを伺う。

イ ふるさと納税の新たなメニューとして市内企業の商品やマスコット、サービスなどをさらに追加してはいかがか。

ウ 横須賀の魅力が向上するような新たなお土産の開発については、ふるさと納税の返礼品にできるようなものを前提に取り組むことについて市長の所見を伺う。

エ 本市が取り組むスポーツによるまちづくりの一環として、スポーツチームと連携して、練習試合を見ることのできるチケットを返礼品に加えるなど、本市に来てもらうための仕掛けを実施することについて、市長の考えを伺う。

(7) 実証実験を本市の課題解決につなげていくことについて

ア 本市が参画した実証実験のうち実用化された案件はどのぐらいあるか伺う。

イ コストをかけている以上、本市が参画する実証実験を市の課題解決につなげる努力をしていくことについて、市長の所見を伺う。

2 新型コロナウイルス感染症対策について

(1) 疫学調査とワクチン接種の本市の体制について

ア 年末年始のいわゆる第3波を経験した上で、4月からの疾病予防担当部廃止の体制変更に問題が生じていないかどうかについて、市長の考えを伺う。

イ 今後感染が増加した場合に本市疫学調査の体制が維持できるかどうか、また保健師の疲弊や本来業務への影響をどのように考えているかについて伺う。

ウ ワクチン集団接種の運営の人員体制が十分に確保できているかについて伺う。

(2) 新型コロナウイルス感染者情報の公開の在り方について

ア 新型コロナウイルス感染者情報の公開の在り方について、性別・年代の非公開をより容易に選択できるように、市長からメッセージを発する必要性について伺う。

- (3) コロナ禍で厳しい状況下にいる方の実態把握や支援について
- ア 経済的に厳しい状況にある方々の、コロナ禍における生活実態把握はどのように行っているかについて伺う。
 - イ 「ほっとかん」を本当の意味で困り感を丸ごと相談できる場所にするためにどのような方策を取っていくかについて伺う。
 - ウ 福祉部に新設される生活支援課と生活福祉課との役割分担について伺う。
- (4) 審議会のオンライン開催について
- ア 審議会のオンライン開催に向けたその後の試行・検証状況と、今後の方策について伺う。
- (5) コロナ禍で滞った指導・監査について
- ア 新年度の指導・監査については感染防止策をしっかりと講じた上で実施すべきであることについて市長の考えを伺う。
- (6) 新市立病院について
- ア 将来的には市民病院と新市立病院が感染症対策をしっかりと担っていくという意識を持つことが大事であると考えているが、市長の認識を伺う。
 - イ 病室の個室化をいま一度検討することについて市長に所見を伺う。
- (7) コロナ禍における雇用対策について
- ア 本市における雇用の状況について市長がどのような課題認識を持っているかについて伺う。
 - イ 市独自の雇用対策をいま以上に推進するべきと考えるが、市長の考えを伺う。

3 福祉施策について

(1) 自殺対策について

- ア 自殺防止の相談の受け皿を増やすだけでなく、年齢や性別、

属性を踏まえて行政側から支援情報を伝える「プッシュ型」の支援策の必要性について、市長の考えを伺う。

イ 支援や福祉サービスが必要な方にリーチする方法をできる限り増やしていくための一つとして、ハローワークとの連携を考えるべきと思うが、市長の考えを伺う。

(2) 障害者法定雇用率の達成について

ア 障害者法定雇用率達成の見通しについて伺う。

(3) 障害者雇用における障害者施設などとの連携について

ア 障害者支援に日常的に携わっている関係者ともっと連携し、障害者の就労を増やしていく工夫をすることについて、市長の考えを伺う。

(4) 支援の質の向上のための支援ファイルのデジタル化について

ア サポートブックをデジタル化し、子どもの支援の充実につなげる取組を進めることについて、市長の考えを伺う。

(5) すこやかんについて

ア 現在の「すこやかん」が、開館当初のそもそもの目的からずれてきてしまっているのではないかと認識に対する市長の考えについて伺う。

イ 施設自体を民間に貸し出す、あるいは売却するなどの方向性も視野に入れて検討する必要性について伺う。

4 子ども・子育てについて

(1) 学力向上について

ア 教育長として新たな教育振興基本計画を策定するに当たって取り組むべきポイントをどのように考えているかについて伺う。

イ 学習困難に陥っている児童生徒を学校はどの程度把握できているか、また現在の体制でサポートが行き渡っていると考えているかどうかについて伺う。

(2) 読書の推進について

- ア 小学生の読書量のさらなる向上の取組に対する教育長の所見について伺う。
- イ 中学生の不読率をどのような方針で改善していこうと考えているかについて伺う。
- ウ 小学生と同様に中学生も授業内で図書室を使う時間を設けたり、課題の中で読書が必須になるようにするなどの工夫の必要性について伺う。
- エ 中学生が興味を抱くような手法を取り入れることで読書により親しむ機会を創出し、小学生からの読書習慣を継続するとともにさらに年齢に応じた読書への誘いができる体制を講じていく必要性について教育長の考えを伺う。
- オ 読書をするためのキャンペーンの取組を、市を挙げて行う有効性について教育長に伺う。

(3) 教職員の働き方改革について

- ア 「横須賀スクールスマイルプラン」の令和2年度の取組がどのくらい進んでいるかについて教育長に伺う。
- イ 教育職員の業務量の適切な管理について、教育委員会として具体的に各学校に対してどのような取組をするよう指導していくかについて伺う。
- ウ スクール・サポート・スタッフが配置されている学校の教職員の業務負担の軽減について、どのような声が上がっているかについて伺う。
- エ スクール・サポート・スタッフについて効果が出ているのであれば、本市独自で人員を拡充する必要性について伺う。
- オ ICTを活用して業務効率化を図ることで、教職員の子どもに向き合う時間を確保する重要性について伺う。
- カ 本市にある部活動の数、それに従事する教職員の数を考えると、部活動指導員を教員の負担軽減につなげようとしているのであれば人数が足りていないと思うが、教育長の認識を伺う。

(4) 教育のICT化推進に伴う諸課題について

- ア スケジュールどおりに各学校のLAN整備等の環境整備は進んでいるか、またICTツールを使って授業を行う教職員の側の準備ができていくのかについて教育長に伺う。
- イ 不登校や支援が必要な児童生徒の学校外での学びの保障の検討がどの程度進んでいるのかについて伺う。
- ウ コロナ禍の中で、様々な理由で学校現場の学びが受けられない子どもたちの学びに対してどのように対応していくのかについて伺う。

(5) 地域交流で子どもの育ちを支える取組について

- ア 地域と小学生との交流事業を行ったボランティアの方々の取組に対する市長及び教育長からのメッセージを含めた感想について伺う。
- イ 各学校や地域で交流事業を行うことに対する市長、教育長の所見を伺う。

(6) 学童クラブについて

- ア 学童クラブの運営費や利用料収入が妥当かどうかなどの判断材料となり得る検証結果がいつ出されるのかについて伺う。

(7) 待機児童について

- ア 子ども未来プランどおり保育の定員数確保を達成することが最低限必要であることについて市長の考えを伺う。
- イ 園の改修を行わなくても保育士が確保できれば定員を増やせるという園もあると聞いているが、本市で働く保育士が十分に確保できれば待機児童が解消できる見込みなのかどうか市長に伺う。
- ウ 入園希望しても入れなかった児童が通うことのできる待機児童園を造って小規模保育事業と一時預かり事業を進める必要性について、市長の所見を伺う。

(8) 幼児教育と保育の在り方について

ア こども園として幼児教育と保育を一体的にどのように行っていくのかなどの方向性がいつ示されるのかについて伺う。

(9) 一時預かりの充実について

ア 使いにくいと言われている本市の一時預かり事業をより使いやすくし充実させるべきと考えるが、市長の考えを伺う。

(10) 諏訪幼稚園跡地活用の検討状況について

ア 諏訪幼稚園跡地活用についての現在の検討状況について伺う。

5 防災について

(1) 復興事前準備について

ア 「復興まちづくりのための事前準備ガイドライン」に沿った準備について本市の取組状況について伺う。

(2) 複合災害への備えについて

ア 複合災害への備えとして、テント等のパーティション以外にどのような取組をしているかについて伺う。

(3) 市職員の市内居住の推進について

ア 市職員の市内居住への働きかけを継続して行っていく必要性について市長の考えを伺う。

6 まちづくりについて

(1) 浦賀ドックとその周辺の一體的なまちづくりについて

ア ドックの活用についてはその歴史的価値をしっかりと踏まえた活用方法にすべきと考えるが、市長の考えを伺う。

イ ドックの活用をその周辺施設や史跡と合わせて一体的に活用することを検討する必要性について、市長の考えを伺う。

ウ 検討の段階で、地域の理解を得ながら進めていくことの重要

性に対する市長の考えについて伺う。

エ 土壌改良をする場合、どのぐらいの費用がかかると見込んでいるかについて伺う。

オ 浦賀コミュニティセンター分館については、ドック周辺の一体的なまちづくりの中で整理統合するなどし、歴史資料館機能ももっと訪れやすい場所に移動することを検討する必要性について市長の考えを伺う。

(2) ルートミュージアムとデジタルマーケティングについて

ア デジタルマーケティングとしてのインターネットを使ったプロモーション等の新たな手法を積極的に取り入れ、実践してしていく必要性について伺う。

イ 横須賀中央駅前に移転される観光案内所をティボディエ邸と連携して展開する必要性について市長の考えを伺う。

(3) 観光協会について

ア 市内観光事業者の収益が上がるような事業を展開していく必要があると考えるが、具体的にどのような事業を想定しているか伺う。

イ 自ら稼ぐ提案型の民間団体として自立していくプロセスを市としてどのようにバックアップしていくのか市長の考えを伺う。

(4) 衣笠地区のまちづくりについて

ア 衣笠観光協会や商店街など地元の人たちと連携して、観光客が周遊する際の地元の受入れの土台を強化することについて市長の考えを伺う。

イ 大矢部弾庫跡地移管の状況について伺う。

ウ 三浦一族の遺跡の調査や整備だけでも先行して進められないかどうかについて伺う。

(5) 海辺の活用について

ア 本市の魅力ある海岸についてそれぞれの特徴や利用方法を

盛り込んだマップ作成やSNS等のインターネットを駆使した情報発信をしていくべきであると考えているが市長の所見を伺う。

(6) 市民協働ポイント制度について

ア 地域の商店街などで使えるポイントにすることを検討してはいかがか。

イ 地域通貨を導入し、市民公益活動ポイント制度と併わせて見直しする必要性について市長の考えを伺う。

(7) 公衆トイレ等の今後の在り方について

ア 公民連携を図り、場合によってはコンビニ等への維持費の助成等による代替の検討の必要性について伺う。

イ 廃止しないのであれば、建て替えの際は、みんなのトイレや多機能トイレにすることについて市長の考えを伺う。

ウ 有料化することを検討してはいかがか。

エ 公共施設のすぐ近くなど、他に利用できる場所がある公園などは老朽化による更新時に周辺住民の意見を聞きながら廃止することを検討する必要性について伺う。

(8) フェリー航路について

ア フェリー航路の経済を回す物流の需要についての動向をどのように捉えているかについて伺う。

7 ジェンダー平等について

(1) ジェンダー平等・男女共同参画について

ア ジェンダー平等・男女共同参画に対する市長の思いについて伺う。

(2) 市職員の女性管理職割合向上の目標数値を掲げることに
て

ア 次期横須賀市女性活躍推進プランでは、女性管理職割合その

ものの目標数値を明確に掲げ、取り組んでいただきたいと考えるが、いかがか。

(3) ポジティブ・アクションの必要性について

ア ポジティブ・アクションを行うことで、新たに市が取り組むべきことが必ず見えてくるので、デメリットはない。ポジティブ・アクションを取り入れる必要性に対する市長の考えを伺う。

(4) 審議会等の政策・方針決定過程に多様な方の参画を促すことについて

ア 引き続き女性委員数、割合の増を目指していくと思っているが、どのような方策で取り組むか伺う。

(5) 若者の割合を高めることについて

ア 若者から意見を聴く機会を増やし、政策へと反映させるべく、審議会等の政策・方針決定過程への積極的な若者の参画促進を目指し、具体的な施策をもって取り組んでいただきたいと考えるが、いかがか。

8 若者政策について

(1) 高校生とともにまちづくりをすることについて

ア 「まちを楽しむ」活動をきっかけに、高校生と市役所の接点を増やしてはいかがか。

(2) 高校生と接点を持つことについて

ア LINEをはじめ、若い世代から意見をもらえる便利なツールは無数にある。ハローワークや市内高校との良好な関係を活用し、今後のインターンシップや、市内高校生の市内就職にもつながるよう、高校生と接点をより多く持ち、意見交換できるよう取り組んではいかがか。

9 文化芸術について

(1) アーティスト村について

ア 今後の展開として、まちなかに芸術作品を展示するパブリックアートのような方策も考えられると思うが、市長の考えを伺う。

(2) 横須賀美術館のさらなる活用について

ア 芝生広場を使ってイベントを開催する、市民がより美術館を訪れやすくするキャンペーンを行う、コロナ禍で苦境にあるアーティストのために展示場所を提供するなど、感染リスクを下げつつさらに美術館の価値を高める方法は様々考えられるが、今後の美術館のさらなる活用について市長、教育長に伺う。

10 環境について

(1) 脱炭素社会実現に向けた具体的な方策について

ア 「横須賀ゼロカーボンシティ宣言」に至った市長の思いについて伺う。

イ 脱炭素社会実現に向けて市や市民、事業者ができる具体的な方策について現段階で分かっていること、市議会に対して求めることについて伺う。

(2) 海洋プラスチックごみ問題について

ア 施政方針では市民や事業者、海洋関連の研究機関などと連携・協力して取組を進めていくとのことであるが、具体的な取組について伺う。

イ 生分解性プラスチックを使用した製品が普及すれば、結果として自然にかえらないプラスチックを減らすことにつながる。海洋プラスチックごみ問題に対する具体策として、こうした製品に対する助成制度を設けることを検討してはいかがか。

(3) (仮称)長坂緑地について

ア 現時点でどのような活用を考えているかについて伺う。

イ 土地利用を図っていく上で、現状の自然環境を生かした方策を考えていく必要がある。例えばオートキャンプ場や自然をそのまま利用したドッグランなども考えられるが、市長の考えを

伺う。

II 水道の広域化について

(1) 水道の広域化の機運を醸成していくことについて

ア 水道の広域化の機運を醸成していくことに積極的に努めるべきであると思うが、上下水道局長の考えを伺う。

(2) 三浦市との水道の広域化について

ア 既に消防の広域化を行っている三浦市との間で、水道の広域化に向けて検討をするのはいかがか。